



エコアクション21 環境活動レポート

(取組期間: 2024年5月～2025年4月)

2025年10月

有限会社 柳井コレクト・サービス

改訂

令和 7年 10月 29日



～目次～

1. 会社概要	P2
2. 環境経営方針	P3
3. 組織図・管理体制	P4
4. 事業内容・許可内容	P5～6
5. 施設	P7～8
6. 処理実績・料金	P9
7. 環境負荷の状況	P10
8. 中期環境目標	P11
9. 環境目標並びに取り組みの結果	P11～12
10. 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価	P13
11. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P14
12. 全体の評価と見直し	P14



会 社 概 要

■ 社 名 有限会社 柳井コレクト・サービス

■ 代 表 者 代表取締役 高津 弘治

■ 所 在 地 山口県柳井市南浜四丁目1番23号

■ 環境管理責任者 氏 名 西本 久美子
連 絡 先 TEL:0820-22-9430 FAX:0820-22-2032
E-mail clllect@yanai-cllect.com
HP http://yanai-cllect.com

■ 法人設立年月日 昭和55年11月5日

■ 資 本 金 500万円

■ 事業の規模

活動規模	単位	2024年度
総売上高	百万円	472
内建設業売上高	百万円	69
解体件数	件	38
従業員数	人	25
床面積	m ²	757.08
敷地面積	m ²	2,003

環境経営方針

理念

山に囲まれ、漁業資源豊富な瀬戸内海に面した場所で、廃棄物の処理業を営む有限会社 柳井コレクト・サービス は、地球の環境保全を適切に推進するために、エコアクション21に基づく環境経営システムを確立し、地域社会に貢献できる事業を行政機関と連携して、取り組みます。

行動指針

1. **環境経営に積極的に取り組み、社内電力、化石燃料、上水の使用を抑え、環境負荷の低減と無駄な経費の出費の削減に取り組みます。**
2. 環境への取組みとして、特に次の事項に取り組みます。
 - ①地球温暖化防止のための行動として、節電、エコドライブ、節水、紙類の削減をし、経費節減に努めます。
 - ②廃棄物削減とリサイクル化を促進し利益を向上させるよう努めます。
 - ③整理・整頓・清潔・清掃・しつけを全社員が取り組み、環境経営を向上させるよう努めます。
 - ④会社周辺及び地域の美化に積極的に全社員で取組み、地域に貢献できるよう努めます。
3. 環境に関する法律・規則、交通規則を遵守します。
環境経営の継続的改善を宣誓します。
4. 環境経営システムの内容を、全社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

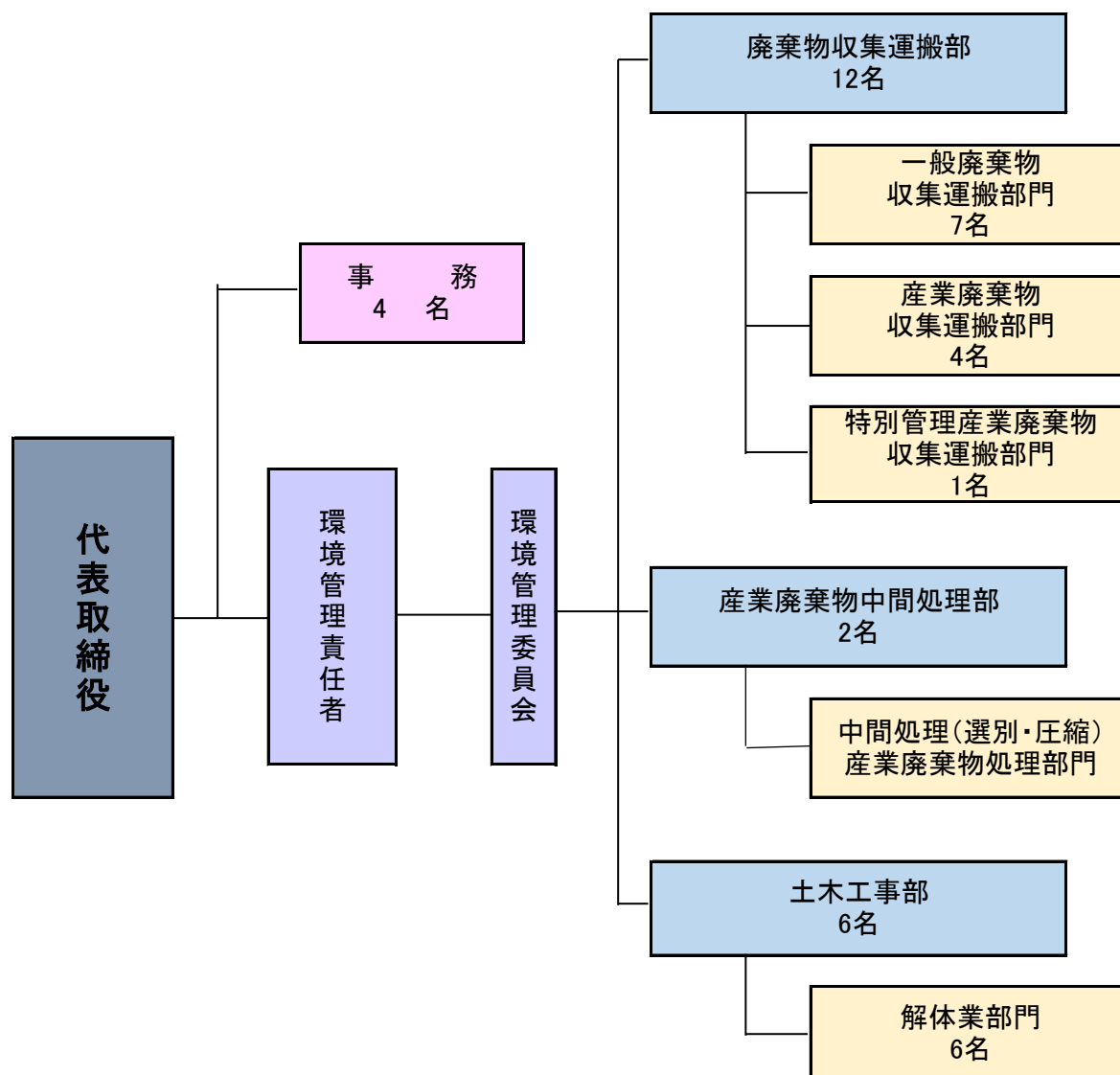
2009年6月9日

有限会社 柳井コレクト・サービス
代表取締役 高津 弘治

最終改訂

2024年5月1日

組織図・管理体制



環境経営システムに関する役割・責任・権限	
役職	役割・責任・権限
代表取締役	全体統括・環境方針及び環境目標設定・全体の評価と見直し 資金の用意・実施体制の構築
環境管理責任者	環境経営システムの構築・実施・管理・代表者への報告 各部門担当者との連絡 環境目標達成の為に施策・訓練・教育計画の作成
各部門担当者	環境目標達成の為に計画の実施の責任者 従業員への周知
事務局	全体事務・文書作成・データ管理

事業内容

- ※一般廃棄物収集運搬業
- ※産業廃棄物収集運搬業
- ※特別管理産業廃棄物収集運搬業
- ※産業廃棄物処理業(中間処理)
- ※建設業(とび・土工工事業 土木工事業 解体工事業)

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 有限会社 柳井コレクトサービス
 事務所 山口県柳井市南浜4丁目1番23号
 活動 一般廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物収集運搬業
 特別管理産業廃棄物収集運搬業
 産業廃棄物処理業(中間処理)
 建設業(とび・土工工事業 土木工事業 解体工事業)

許可内容

《 一般廃棄物収集運搬業 》

許可番号	指令柳市環第26-1号	許可年月日	令和6年6月3日
		許可の有効年月日	令和8年3月31日
事業の範囲	一般廃棄物	事業の区域	柳井市全域
事業計画	柳井市内全域の一般廃棄物を収集し、焼却場と不燃物処理場に、それぞれ運搬する。		

《 産業廃棄物収集運搬業 》

許可番号	第 03512003846 号	許可年月日	令和7年9月26日
		許可の有効年月日	令和14年9月19日
事業の範囲	産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等 破砕物を除く。以上3種類)、動植物性残渣、銧さい、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカ リ、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類、ばいじん(これらは、石綿含有産業廃棄 物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等であるものを含み、特別管理産 業廃棄物であるものを除く。)以上16種類 事業の区分 積替え又は保管を含む		
事業計画	主に、建設現場・工場などから排出される産業廃棄物を収集し、処分場に搬入する。		

《 特別管理産業廃棄物収集運搬業 》

許可番号	第 03562003846 号	許可年月日	令和4年6月23日
		許可の有効年月日	令和11年6月22日
事業の範囲	特別管理産業廃棄物の種類 廃油、廃酸、廃アルカリ、感染性廃棄物、廃石綿等、燃え殻、汚泥、ばいじん以上8種類 事業の区分 積替え又は保管を含む		
事業計画	主に、医療機関から排出される特別管理産業廃棄物を収集し、処分場に搬入する。		

《 産業廃棄物処分業 》

許可番号	第 03522003846 号	許可年月日	令和6年1月30日
		許可の有効年月日	令和10年11月30日
事業の範囲	事業の区分 中間処理(圧縮、選別) 産業廃棄物の種類 圧縮 : 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、紙くず、木くず、繊維くず 以上6種類 選別 : 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、紙くず、木くず、繊維くず、がれき類 以上7種類		
事業計画	解体現場や工事現場から発生した廃棄物の処理を受託し、選別及び圧縮処理を行いリサイクル業者や中間処理業者、最終処分業者へ搬入する。		

《 建設業 》

許可番号	般—5 第 17632 号	許可年月日	令和 5年 8月28日
		許可の有効年月日	令和 10年 8月27日
事業の範囲	とび・土工工事業 ・ 土木工事業 ・ 解体工事業		

施 設

《 運搬車両 》

車両の種類	台数	車両の種類	台数
集塵車	4t車 3台	脱着式コンテナ車	10t車 1台
	3t車 5台		8t車 1台
	2t車 2台		4t車 2台
	3t車 4台		
ダンプ	10t車 1台	ユニック車	7.5t車 1台
	4t車 1台		2t車 1台
	3t車 2台	ドライバン	4t車 1台
軽ダンプ・軽トラック車	2台	リフト	1t車 1台
			2.5t 1台
軽バン	3台	バックフォア	3.0t 1台
			0.25 2台
			0.20 2台

《 積替保管施設 》

所在地 山口県柳井市南浜四丁目675番地5

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、ゴムくず、がれき類(これらは、石綿含有産業廃棄物であるものを含み、水銀特別管理産業廃棄物、水銀含有ばいじん等及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上5種類
面積	460.3m ²
保管上限	488.35m ³
積み上げ高さ	3.1m

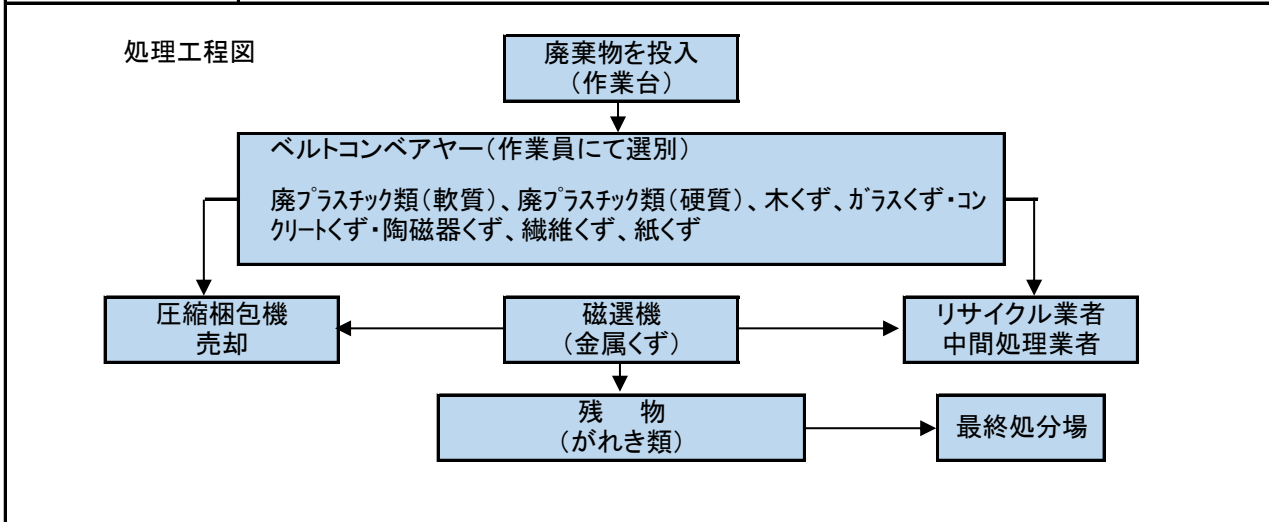
産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)・陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。以上3種類)、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず・繊維くず、ばいじん(これらは、水銀特別管理産業廃棄物、水銀含有ばいじん等であるものを含み、石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上12種類
面積	130m ²
保管上限	19.34474m ³
積み上げ高さ	屋内にて保管を行う

特別管理産業廃棄物の種類	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃石綿等、燃え殻、汚泥、ばいじん 以上7種類
面積	21.6m ²
保管上限	43.2m ³
積み上げ高さ	2m

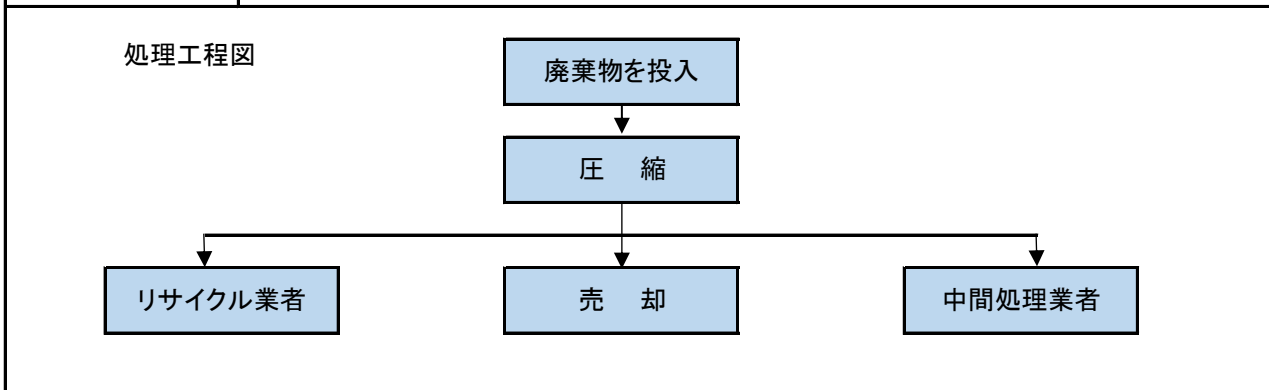
特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物
面積	12.96m ²
保管上限	30m ³
積み上げ高さ	2.36m

《 処理施設 》

種類	中間処理(選別)
廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く)・陶磁器くず、がれき類
施設	ベルトコンベヤー
処理方法	作業テーブルよりベルトコンベヤーに進み選別
処理能力	15.08t/日(8時間)



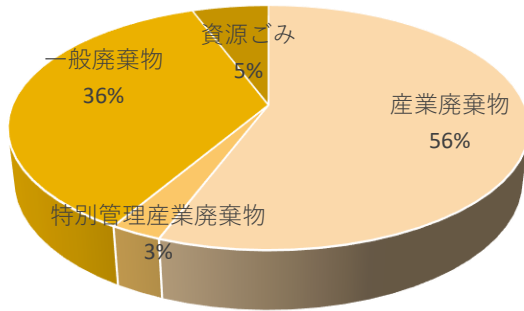
種類	中間処理(圧縮)
廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く)・陶磁器くず、がれき類
施設	縦型圧縮梱包機
処理方法	プレッシャーによりプレス盤が下がり圧縮
処理能力	4.95t/日(8時間)



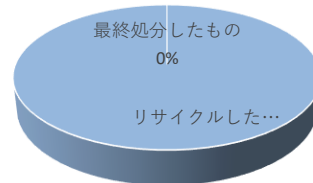
処理実績

受託した廃棄物の収集運搬量 10,538.79 t	産業廃棄物収集運搬量	5,874.944 t
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	288.266 t
	一般廃棄物収集運搬量	3,778.490 t
	資源ごみ	597.093 t
受託した廃棄物の中間処理量 72.81 t	受託した廃棄物のリサイクル量	72.805 t
	受託した廃棄物のリサイクル率	99.993 %
建設業からの廃棄物の排出量 3,265.36 t	排出した廃棄物のリサイクル量	3,170.140 t
	排出した廃棄物のリサイクル率	97.084 %

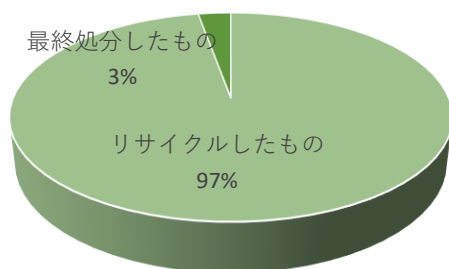
収集運搬量の割合



中間処理後廃棄物の割合



建設業からの廃棄物の割合



処理料金

※ 収集運搬料金

※ 処分料金

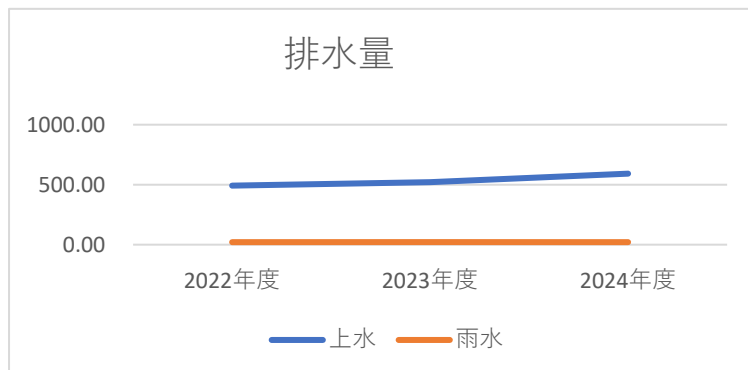
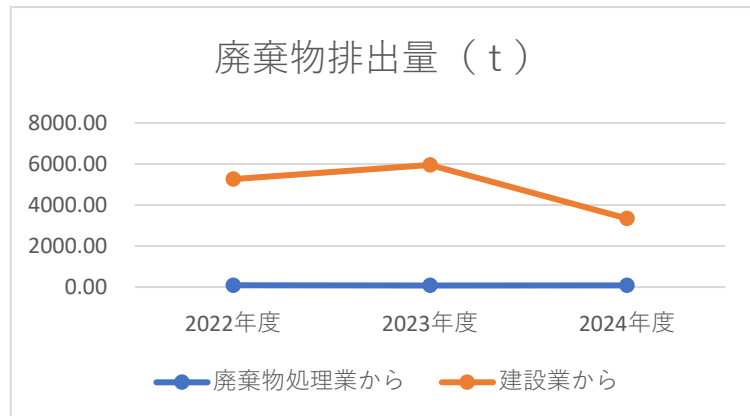
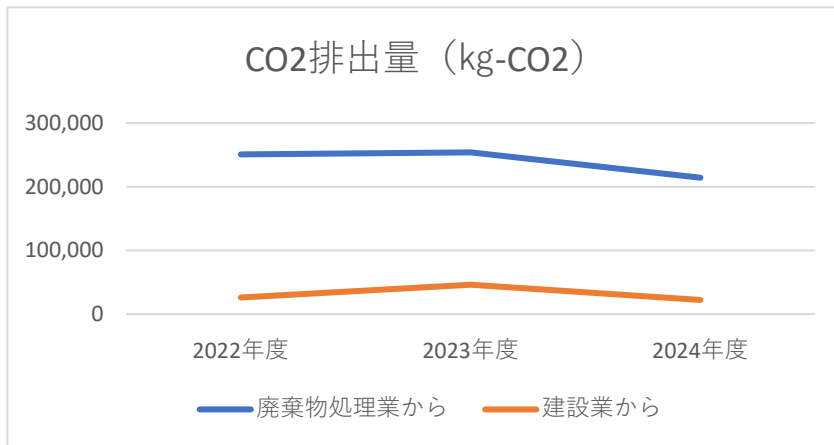
- ... 運搬距離・廃棄物の種類等により異なるので、見積による。
- ... 距離・量などにより異なるため、見積による。
- ... 廃棄物の種類等により異なる。
- ... 別途見積りによる。

環境負荷の状況

当社の事業活動に伴う過去3年間の環境負荷の状況は、以下の通りである。

年 度	単 位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	277,475.09	300,270.30	236,586.16
購入電力量	kg-CO2	13,791.79	12,016.17	10,260.34
ガソリン 軽油 リン	二酸化炭素排出量 (収集運搬)	kg-CO2	241,853.56	203,842.68
	二酸化炭素排出量 (建設業)	kg-CO2	46,196.84	22,262.82
その他化石燃料	kg-CO2	870.27	203.73	220.32
廃棄物排出量	t	5,258.16	5,951.91	3,343.69
一般廃棄物	t	1.29	1.29	1.00
産業廃棄物	t	5,256.87	5,950.62	3,341.69
総排水量	m ³	513.00	543.50	613.00

※ 軽油・ガソリンは収集運搬量で数値が変わるので、収集運搬量(kg-CO2/t)に対しての数値と実質数値の両方で比較することとする。
 ※ 2024年度購入電力量に対する調整後排出係数(0.0000472-CO2/kwh)は2024年度のものを用いている。
 ※ 産業廃棄物排出量には当社にて中間処理し処分場に排出した物も含まれる。



中期環境目標

- ① 燃費の向上と二酸化炭素排出量の削減
 収集運搬車の燃費を管理し、燃費の向上・維持を目標とする。
 車両ごとの走行距離と燃料の使用量を把握する。
 (対象車両: 塵芥車2t・3t、アームロール車3t)
- ② 廃棄物のリサイクル率の向上
 解体からの廃棄物のリサイクル率は90%以上を目標とする。
- ③ 会社周辺及び美化活動に取り組む。
 毎月平日の最終営業日に会社周辺の清掃活動を行なう。

項目	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標	単位
収集運搬車(塵芥車)の燃費	4.40	4.40	4.40	km/L
収集運搬車(アームロール車・3t車)の燃費	5.50	5.50	5.50	km/L
解体排出物のリサイクル率	90	90	90	%
美化活動	12	12	12	回

項目		基準値 (2024年実績)		2025年度 目標		単位
アームロール車の種類	5690	3t	5.70	平均	5.56	km/L
	531	3t	4.85			
	535	3t	5.37			
	5314	3t	6.35			
				平均	5.50	

環境目標及び実績並びに取り組結果

塵芥車の平均燃費の向上、廃棄物のリサイクル率の向上、上水使用量の削減並びに雨水使用料の増加、美化活動の実施を目標とした。
 取組結果は以下のとおりである。

項目	2024年度 目標	2023年度 実績	2024年度 実績	単位	取組結果
収集運搬車(塵芥車)の燃費	4.50	4.42	4.20	km/L	×
産廃	—	5,875.43	3,265.35	t	○
	解体	98.24	97.10	%	
	リサイクル率	59.25	76.33	t	
	中間処理	100.00	100.00	%	
リサイクル率	95.00				○
美化活動	12.00	12.00	12.00	回	○

取り組み

※清掃活動(除草作業)の様子



猛暑の為か草の伸びもよく月末の清掃に係わらず
気が付いた人が積極的に除草作業をしている。

※車両の入替



※軽ダンプ車を購入した

軽ダンプを1台追加した。
粗大ごみの回収も軽の依頼が多く、軽ダンプが
2台になったことで回収の需要に応えることが可
能になる。
少量の廃棄物や狭い場所の回収にも活用を期
待している。



※4tウイング車を購入した

3tパネル車を4tウイング車に買替えた。
前の車が平成14年式と古くなっており検討して
いたが、発注から納車までの時間が長かか
り本当に待ちに待った新車の入替になった。
令和7年度燃費基準95%達成車・平成27年度
燃費基準10%向上達成車であり活用を期待し
ている。

※熱中症対策



19. ティーフナイビー

22. シルバークレー

36. カーキ



19. ティーフナイビー

22. シルバークレー

81. キャメル



労働安全衛生規則の改正に伴い、
熱中症対策として空調服をパートを
含む作業員全員に支給し、熱中症
対策キットを設置した。
また塩分チャージタブレットや水・ス
ポーツドリンクを購入し、各々自由に
持ち出せるよう常設した。
ペットボトルは分別しやすいようラ
ベルレスを購入している。

主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

項目	環境活動計画	目標	実績	取組結果	取り組みの評価				
燃費の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・収集運搬車(塵芥車)の燃費を管理し、燃費の向上を目標とする。 ・車両ごとの走行距離と燃料の使用量を把握する。 	4.5km/L	4.2km/L	×	収集ルートの見直しを行い最適なルートになっている。 昼休憩や休憩を社外でとる者も多く、特に夏季は熱中症対策の為、車内でのエアコンを使用して休憩することをすすめている。 燃費の維持・向上と快適な環境は相反するところであると感ずる。 来期は4t車は燃費に差があり過ぎるため対象外とする。				
	塵芥車No.(種類)	2023年度			2024年度				
		走行距離合計(km)	給油量(L)	燃費(km/L)	平均	走行距離合計(km)	給油量(L)	燃費(km/L)	平均
	5313 2t	10,280	1557.12	6.52	4.70 km/L (4t除く)	16,796	3296.70	5.09	4.43 km/L (4t除く)
	9702 2t	24,558	4611.81	5.33		27,026	5262.80	5.14	
	8255 3t	1,391	367.40	3.79		1,654	391.10	4.23	
	533 3t	17,599	4452.01	3.95		12,606	3233.92	3.90	
	538 3t	19,011	4011.80	4.74		15,289	3996.74	3.83	
	539 3t	21,666	4873.00	4.45	18,162	3816.90	4.76	4.20km/L (全体)	
	5312 3t	19,290	4678.57	4.12	18,226	4510.12	4.04		
5311 4t	11,688	4737.02	2.47	10,513	4256.01	2.47			
				4.42km/L (全体)	(グレーの枠は燃費が下がった車両)				
産業廃棄物の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物は分別を徹底し、リサイクル化に努める。 	解体リサイクル率	95%	解体リサイクル率	97.10%	○	解体工事で排出された廃棄物は全て分別リサイクルし再資源化に努めている。 リサイクル率は横ばいである。 中間処理は軟質プラの圧縮と選別のみ行っている為、リサイクル率は安定している。		
		中間処理リサイクル率	90%	中間処理リサイクル率	100%	○			
地域美化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・会社周辺の清掃活動を行う。 ・排水枡の清掃(年2回) 	12回/年	12回以上/年	○	月1回の会社周辺の美化活動にも取り組むことができた。 業務が早く終了した時等は、自発的に会社周辺の清掃を行っている。 定期的に排水枡の清掃を行っている。 業務が早く終了した時等は、自発的に排水枡の清掃を行っている。				
		2回/年	2回以上/年	○					

(5) 来年度の環境活動計画

車両の燃料の効率化(燃費の向上(維持))を中心に取組みを進めていく。
 産業廃棄物の排出量は解体件数により増減するためリサイクル率を重点におく。
 解体のリサイクル率は95%以上を、中間処理のリサイクル率は90%以上を目標とする。
 会社周辺の清掃活動を月1回実施する。

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

今年度、環境関連法規（廃掃法、建設リサイクル法、建築基準法、消防法、フロン排出抑制法等）は遵守できており、環境に関する苦情、訴訟等は無かった。

全体の評価と見直し

廃棄物のリサイクル・節水・美化活動と長年目標に掲げてきたことは進んで行動できており目標を達成できている。
これは長年のエコアクションの活動を通して社員に浸透している結果と思う。

2023年度・2024年度と上水の使用量が増加しているが、量水器が少しずつ回転しており、漏水を疑い業者に調査を依頼した。漏水は確認できたが場所は特定できていない。水道代は月1,500円程度の増額と、大きな損失には至っておらずしばらく静観する予定である。
また、飲料容器の分別場の清掃には雨水も使用しているが上水の使用量も増えているようである。こちらは悪臭防止・害虫防止のため容認している。

2023年度からは運搬車両の燃費の維持・向上を目標とし、塵芥車から管理を始めた。
収集ルートの見直しも行っている一方で車両は古くなり燃費の維持・向上は難題である。
2025年度はアームロール(3t車)も対象とし、少しでも効率の良い運搬ができるよう改善していきたい。

代表取締役 高津 弘治